

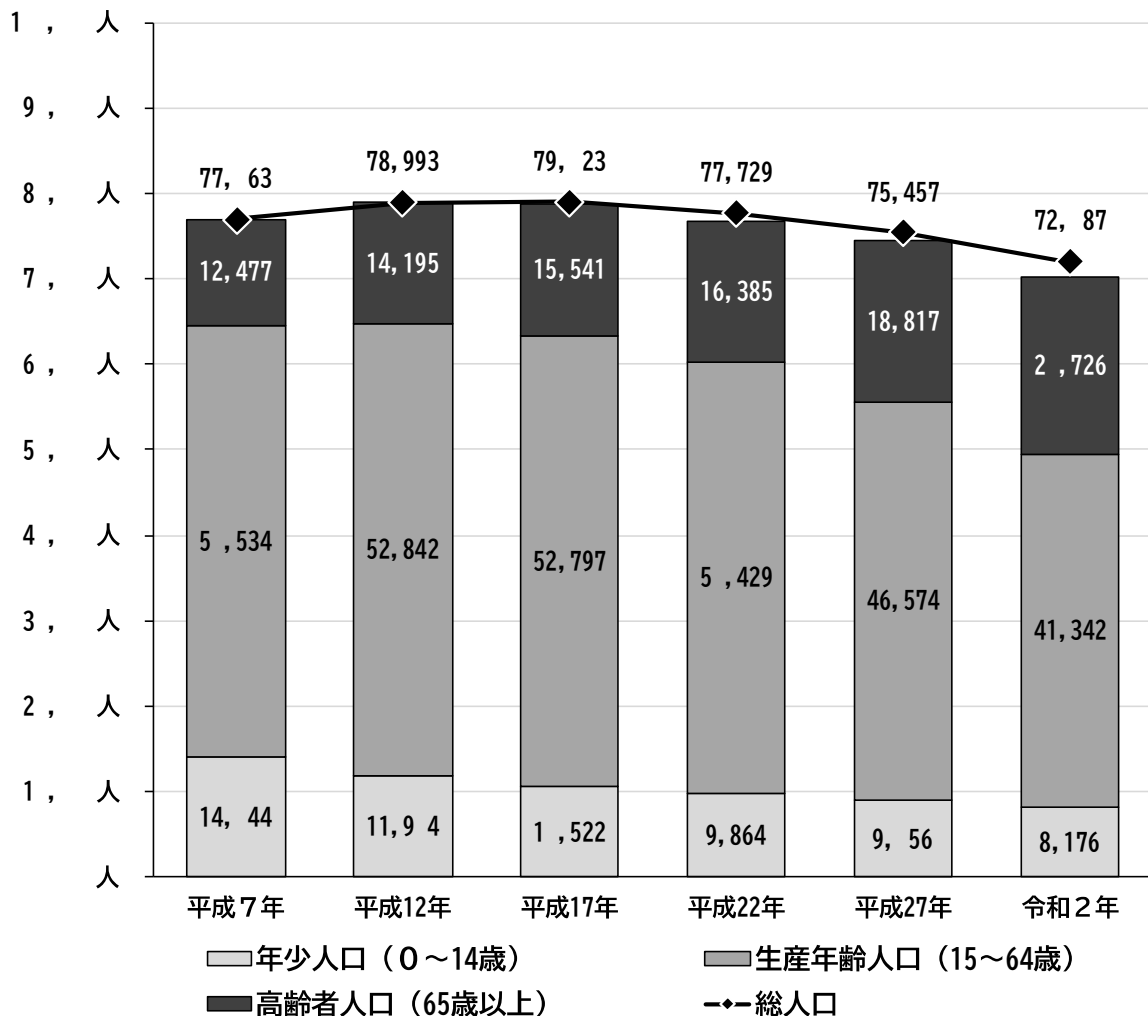
第2章 大田原市を取り巻く状況

1 統計データからみる大田原市の現状

(1) 人口等の状況について

国勢調査による本市の総人口は、平成17年をピークに減少に転じ、令和2年には72,87人となっています。年齢3区分別人口をみると、高齢者人口（65歳以上）は増加を続ける一方で、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少が続いていることから、本市においても少子高齢化が進行していることがわかります。

【総人口と年齢3区分別人口の推移】



資料：国勢調査

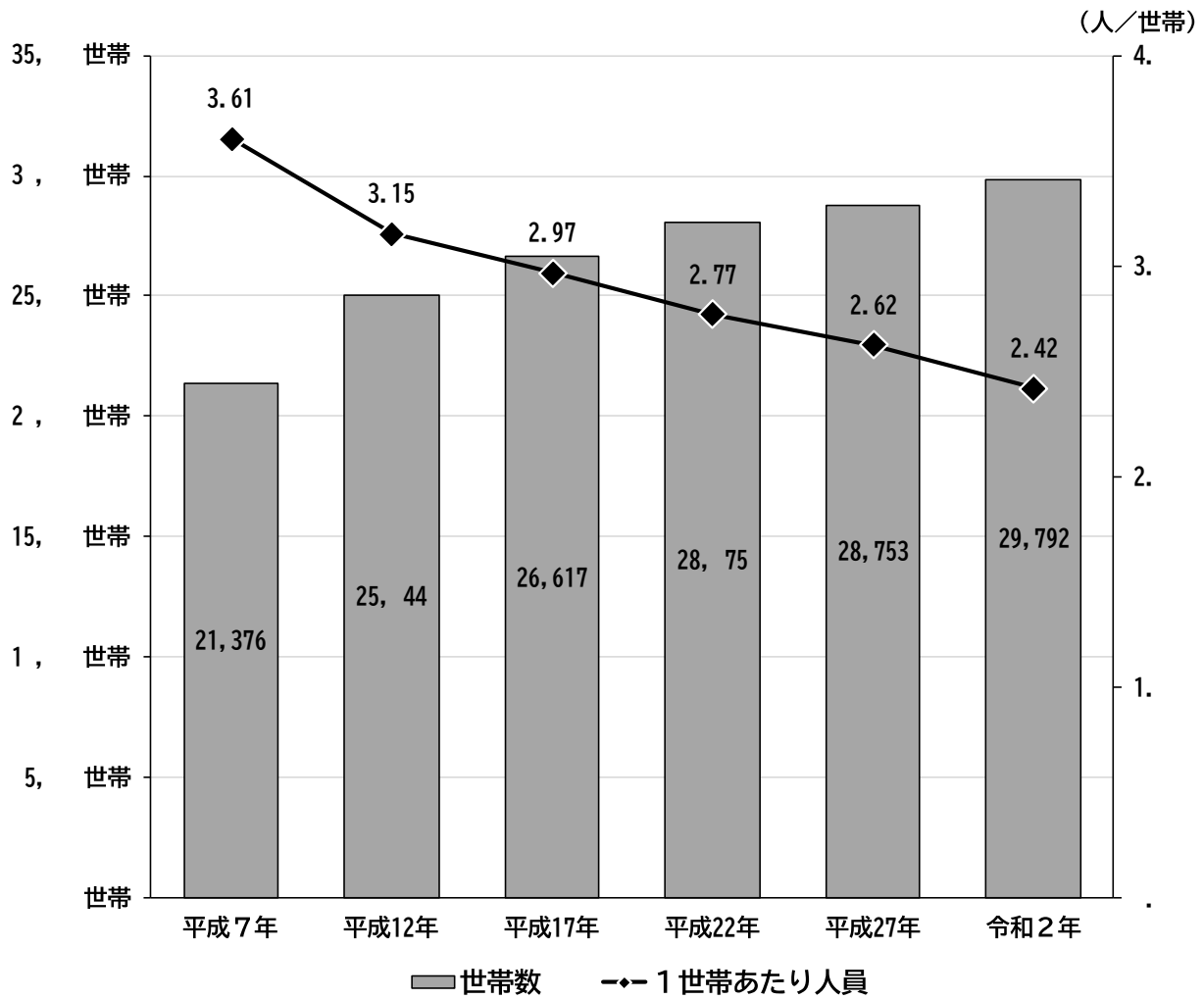
※総人口には、年齢不詳を含んでいます。

(2) 世帯の状況について

国勢調査による本市の世帯数は、増加傾向で推移し、令和2年で29,792世帯と、1年前の平成22年の28,75世帯に対し、1,717世帯の増加となっています。

また、1世帯あたりの人員は、減少傾向で推移し、令和2年で2.42人となっています。

【世帯数及び1世帯あたり人員の推移】



資料：国勢調査

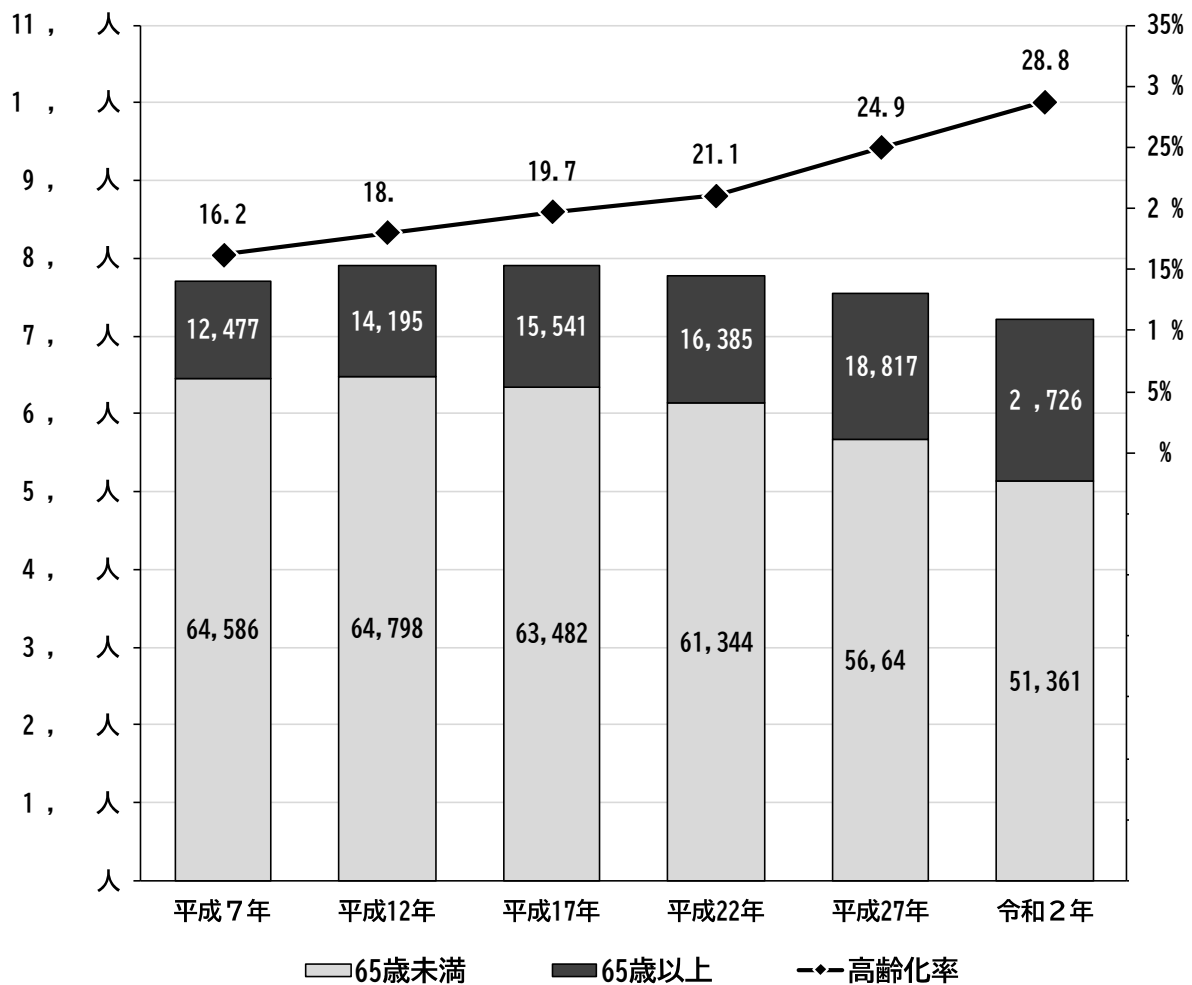
(3) 高齢者の状況について

①市全体でみる高齢者の状況

総人口に占める高齢者人口は、令和2年で2,726人と、高齢化率は28.8%となっています。少子高齢化は進行し、平成22年と比べて、高齢化率は7.7%の増加となっています。

	総人口	65歳未満	65歳以上	高齢化率
平成7年	77,63人	64,586人	12,477人	16.2%
平成12年	78,993人	64,798人	14,195人	18.0%
平成17年	79,23人	63,482人	15,541人	19.7%
平成22年	77,729人	61,344人	16,385人	21.1%
平成27年	75,457人	56,64人	18,817人	24.9%
令和2年	72,87人	51,361人	2,726人	28.8%

【市全体の高齢者人口及び高齢化率の推移】



資料：国勢調査

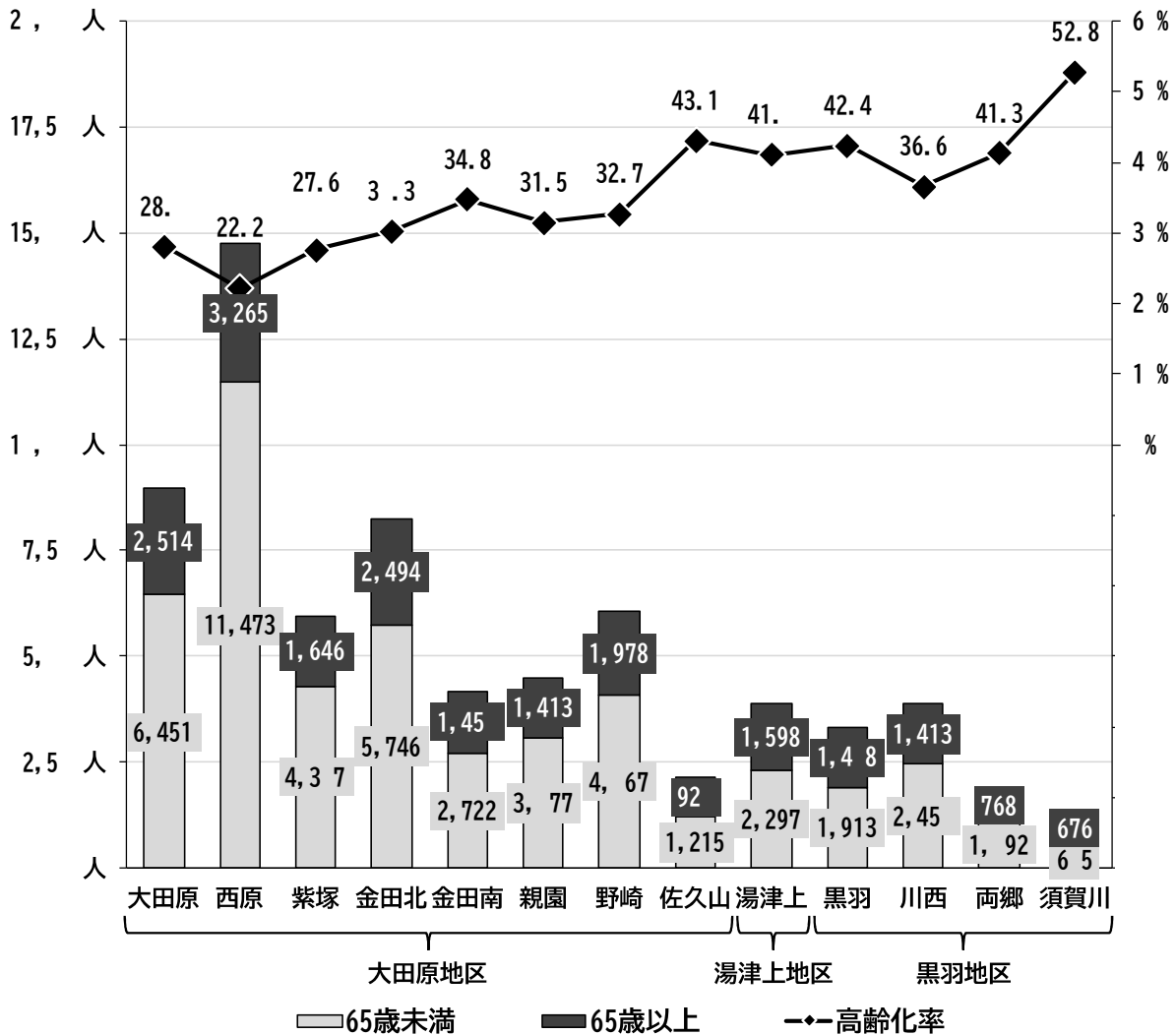
※年齢不詳は、65歳未満の人口に含んでいます。

②地区別でみる高齢者の状況

地区別の高齢化率をみると、須賀川、佐久山、黒羽の順に高くなっており、人口が少ない地区の高齢化が進行している状況となっています。

地区	65歳未満	65歳以上	高齢化率	地区	65歳未満	65歳以上	高齢化率
大田原	6,451人	2,514人	28. %	佐久山	1,215人	92人	43.1%
西原	11,473人	3,265人	22.2%	湯津上	2,297人	1,598人	41. %
紫塚	4,377人	1,646人	27.6%	黒羽	1,913人	1,488人	42.4%
金田北	5,746人	2,494人	3.3%	川西	2,451人	1,413人	36.6%
金田南	2,722人	1,451人	34.8%	両郷	1,921人	768人	41.3%
親園	3,777人	1,413人	31.5%	須賀川	651人	676人	52.8%
野崎	4,677人	1,978人	32.7%	全体	47,415人	21,543人	31.2%

【地区別の高齢者人口及び高齢化率の状況】



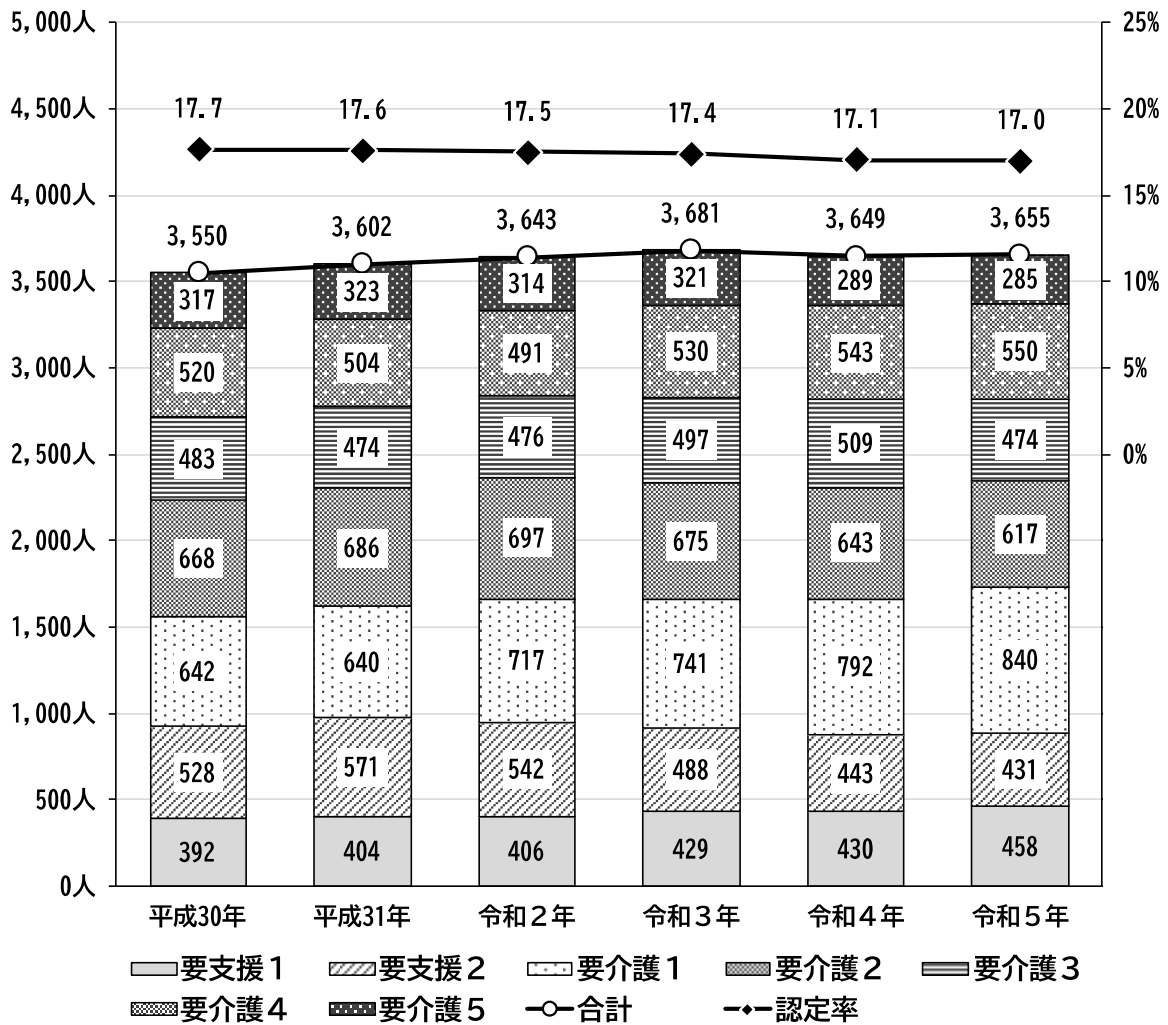
資料：高齢者幸福課（令和5年4月1日現在）

(4) 要介護認定者の状況について

介護保険制度の要介護認定者数は、令和5年には3,655人で、認定率は17. %となっています。近年、要介護認定者数は横ばいで推移し、認定率は減少傾向となっています。

要支援・要介護度別に認定者数の推移をみると、要介護1の増加が著しく、平成3年の642人から令和5年には840人と、約1.3倍となっています。

【要介護認定者数及び認定率の推移】



資料：介護保険事業状況報告（各年3月末日現在）

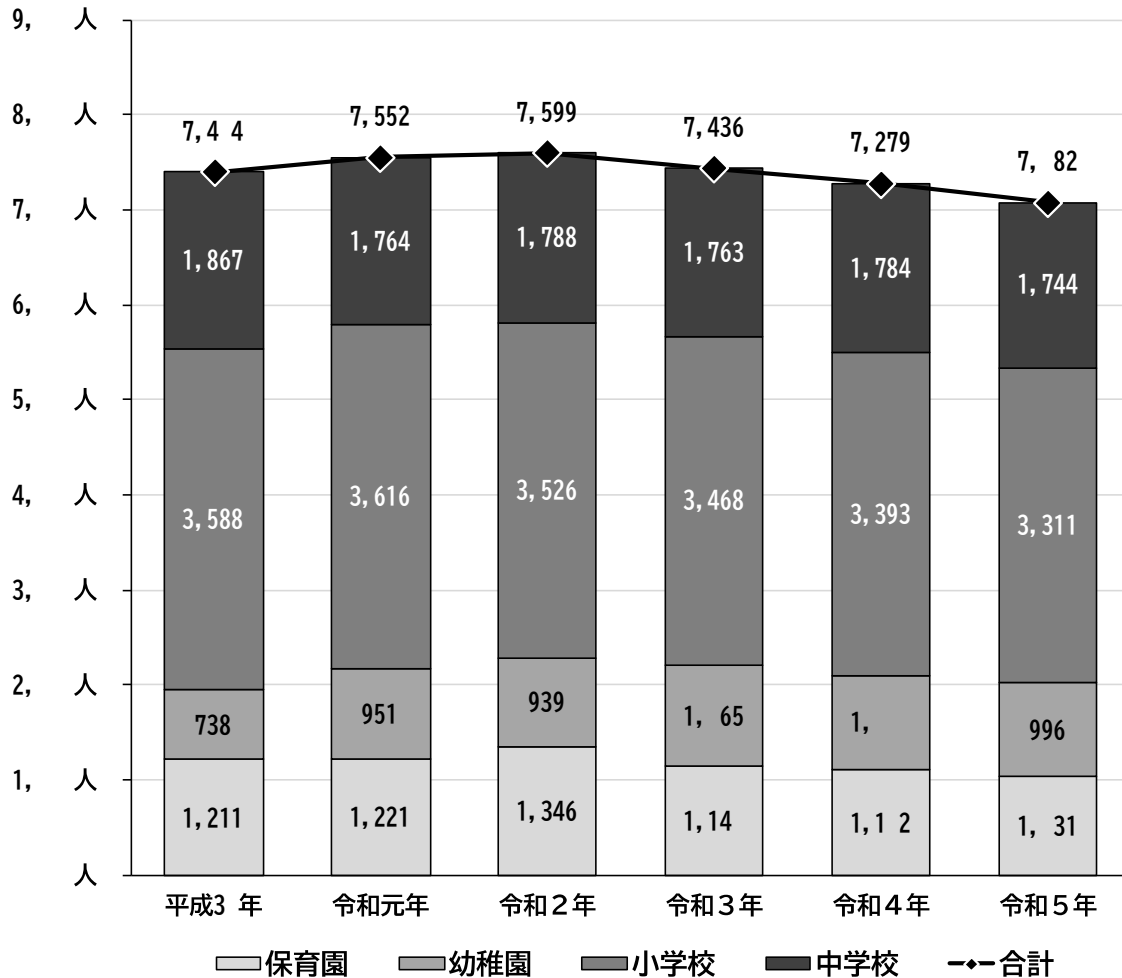
※認定率は、要支援・要介護認定者（第1号被保険者のみ）÷第1号被保険者にて算出しています。

(5) 子どもの状況について

①市全体でみる子どもの状況

本市の保育園、幼稚園、小・中学校の在籍状況を見ると、令和5年で7,82人と、平成3年と比べて、322人の減少となっています。また、区分で見ると、保育園は18人の減少、幼稚園は258人の増加、小学校が277人の減少、中学校が123人の減少となっています。

【保育園、幼稚園、小・中学校の児童・生徒数の推移】



資料：保育課、学校教育課（各年5月1日現在）

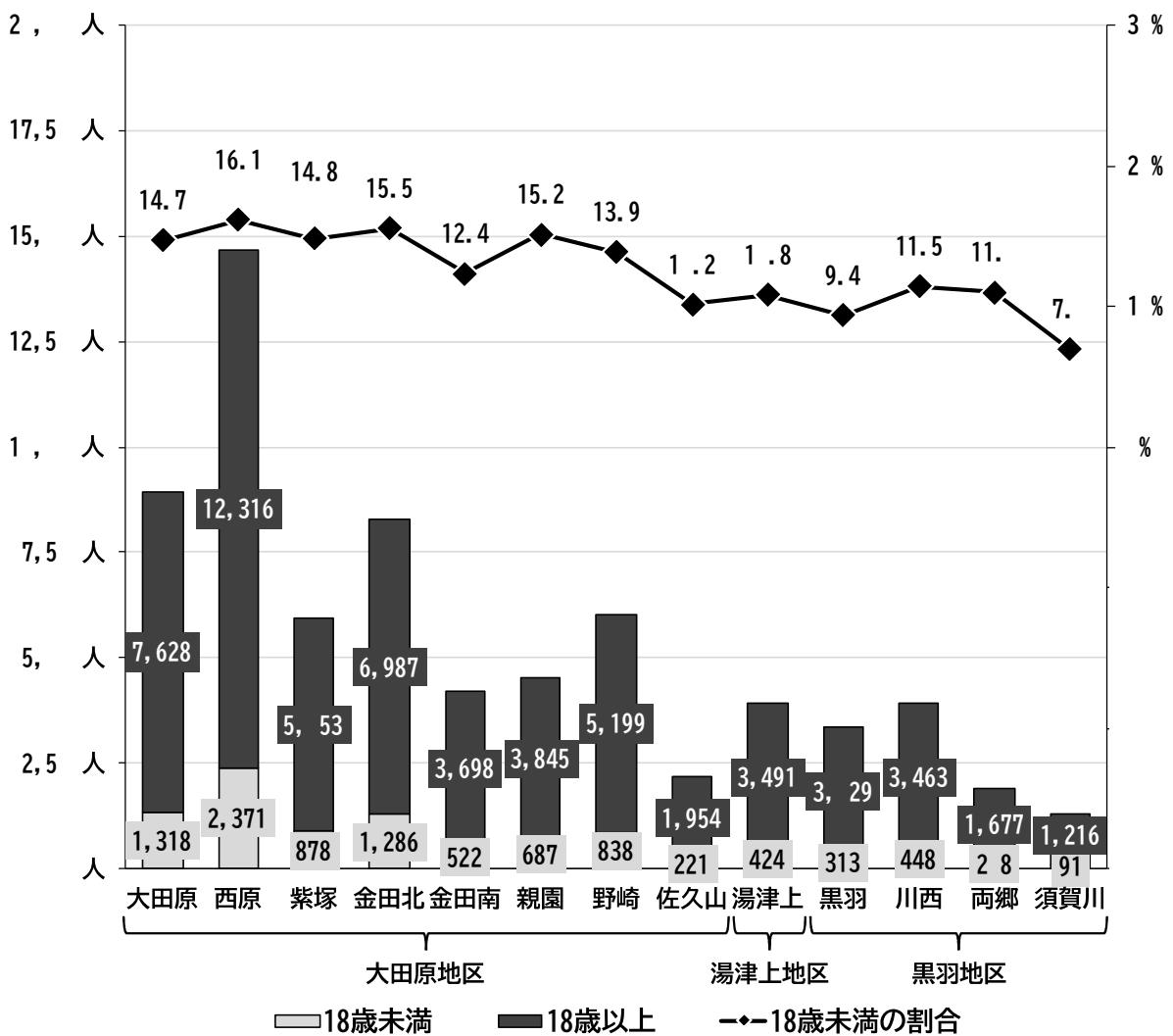
※幼稚園は、認定子ども園1号含む。

②地区別でみる子どもの状況

地区別の子どもの状況を見ると、18歳未満の割合は須賀川、黒羽、佐久山の順に低くなっています。高齢化が進行している地区において、子どもが占める割合も低くなっている状況です。

地区	18歳未満	18歳以上	18歳未満の割合	地区	18歳未満	18歳以上	18歳未満の割合
大田原	1,318人	7,628人	14.7%	佐久山	221人	1,954人	1.2%
西原	2,371人	12,316人	16.1%	湯津上	424人	3,491人	1.8%
紫塚	878人	5,553人	14.8%	黒羽	313人	3,299人	9.4%
金田北	1,286人	6,987人	15.5%	川西	448人	3,463人	11.5%
金田南	522人	3,698人	12.4%	両郷	28人	1,677人	11.0%
親園	687人	3,845人	15.2%	須賀川	91人	1,216人	7.0%
野崎	838人	5,199人	13.9%	全体	9,655人	59,556人	13.9%

【地区別の子どもの状況】



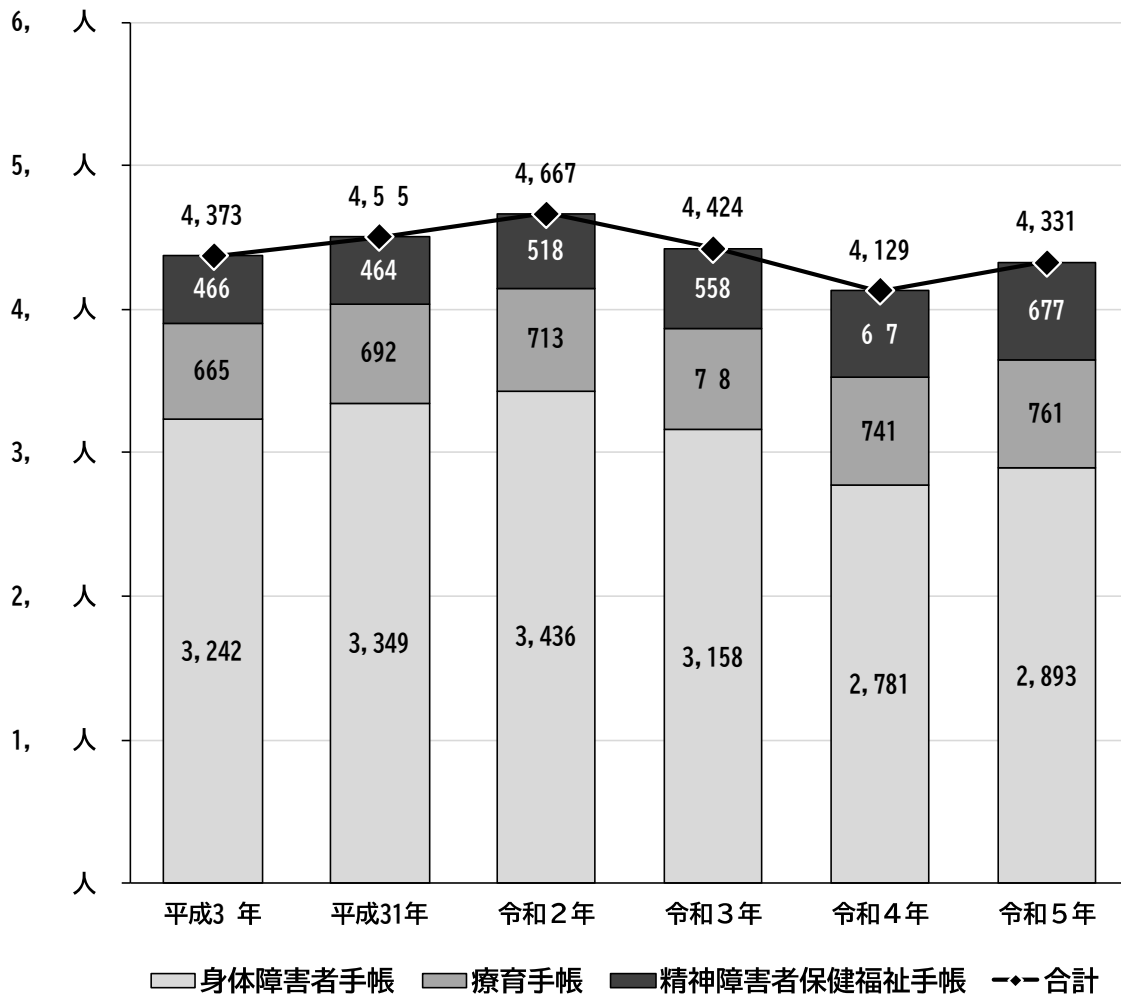
資料：福祉課（令和5年4月1日現在）

(6) 障害者の状況について

本市の手帳所持者の状況は、令和5年でみると、身体障害者手帳が2,893人、療育手帳が761人、精神障害者保健福祉手帳が677人となっています。

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	合計
平成3年	3,242人	665人	466人	4,373人
平成31年	3,349人	692人	464人	4,555人
令和2年	3,436人	713人	518人	4,667人
令和3年	3,158人	78人人	558人	4,424人
令和4年	2,781人	741人	67人人	4,129人
令和5年	2,893人	761人	677人	4,331人

【手帳所持者数の推移】

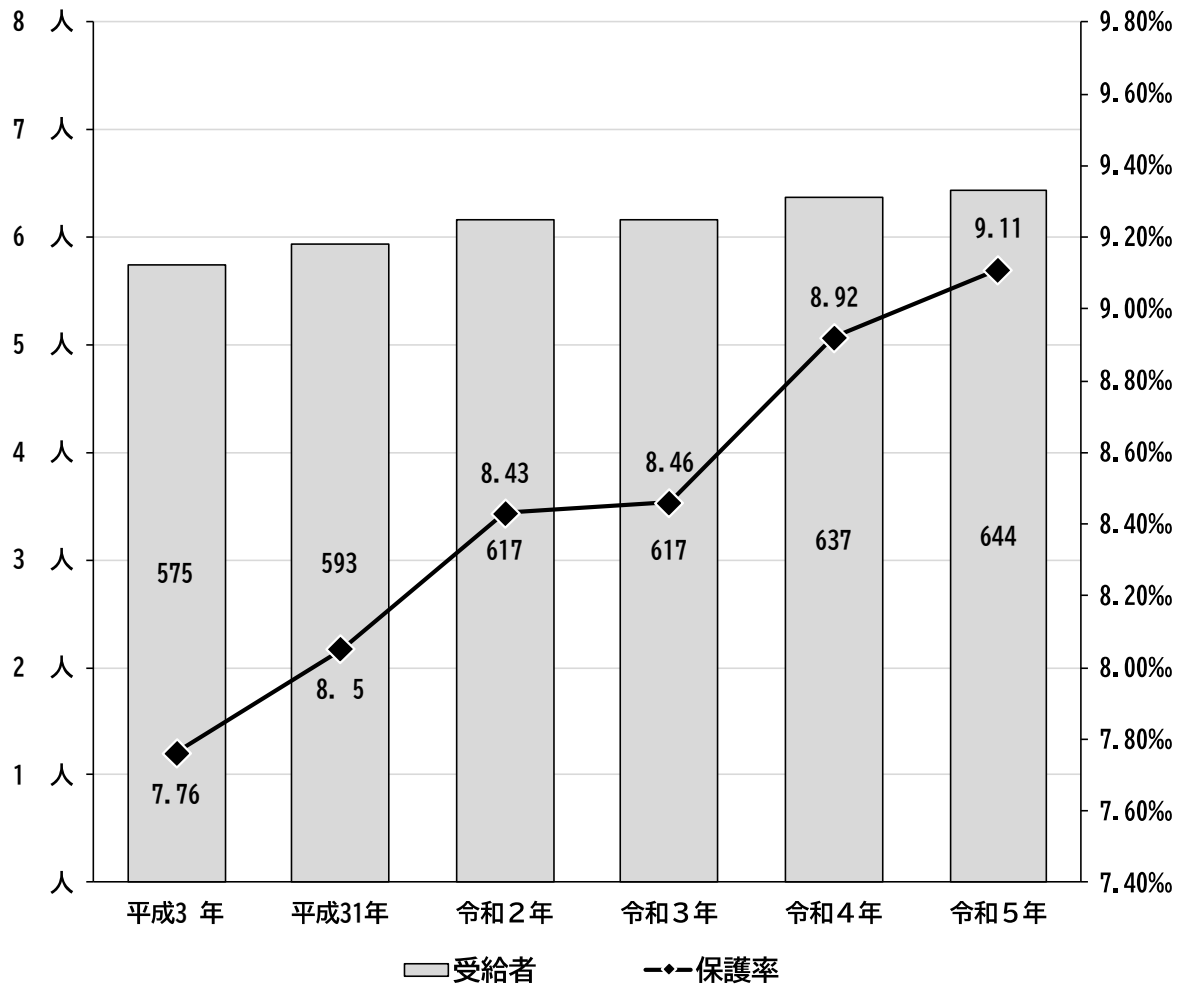


資料：福祉課（各年4月1日現在）

(7) 生活保護の状況について

生活保護の被保護人員の推移をみると、平成3年以降、増加傾向で推移しており、人口1,000人に対する被保護人員の割合である保護率（単位：‰[パーミル]）は、令和5年には9.11‰となっています。

【生活保護受給者の推移】



資料：福祉課（各年4月1日現在）

※パーミルとは、千分率のことで‰で表します。

2 アンケート調査からみる地域福祉の現状

(1) 調査の概要

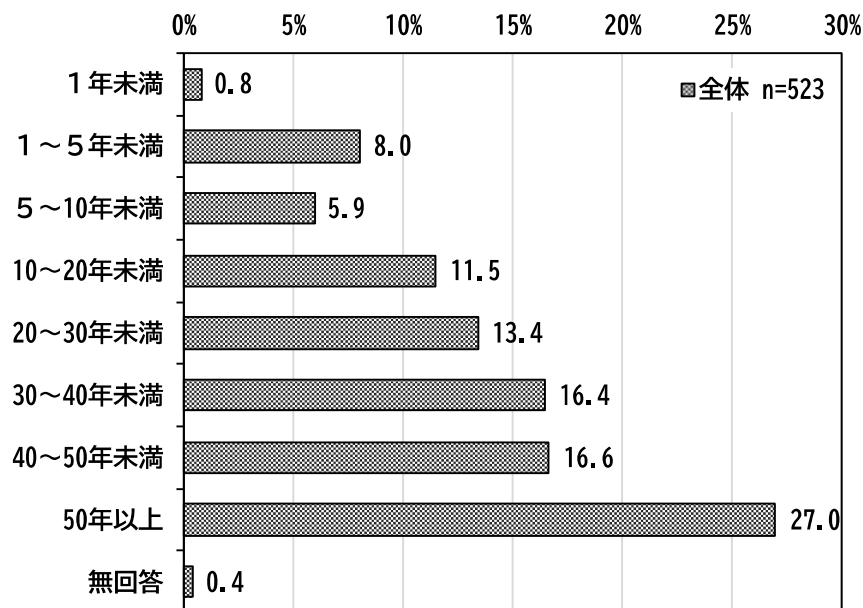
本計画の策定にあたり、地域福祉に対する考え方などを把握するため、アンケート調査を実施しました。

調査対象者	市内在住の18歳以上（無作為抽出）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和4年7月15日～令和4年8月22日
回収結果	配布数：1,2 件 回収数：523件 回収率：43.6%

(2) 調査結果の概要

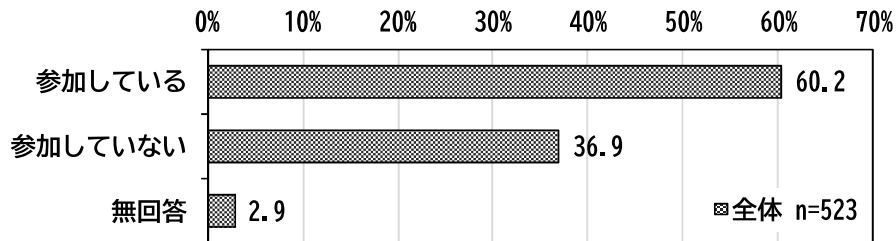
① 居住年数

居住年数については、「5年以上」が27.0%で最も高く、次いで「4～5年未満」が16.6%、「3～4年未満」が16.4%となっています。



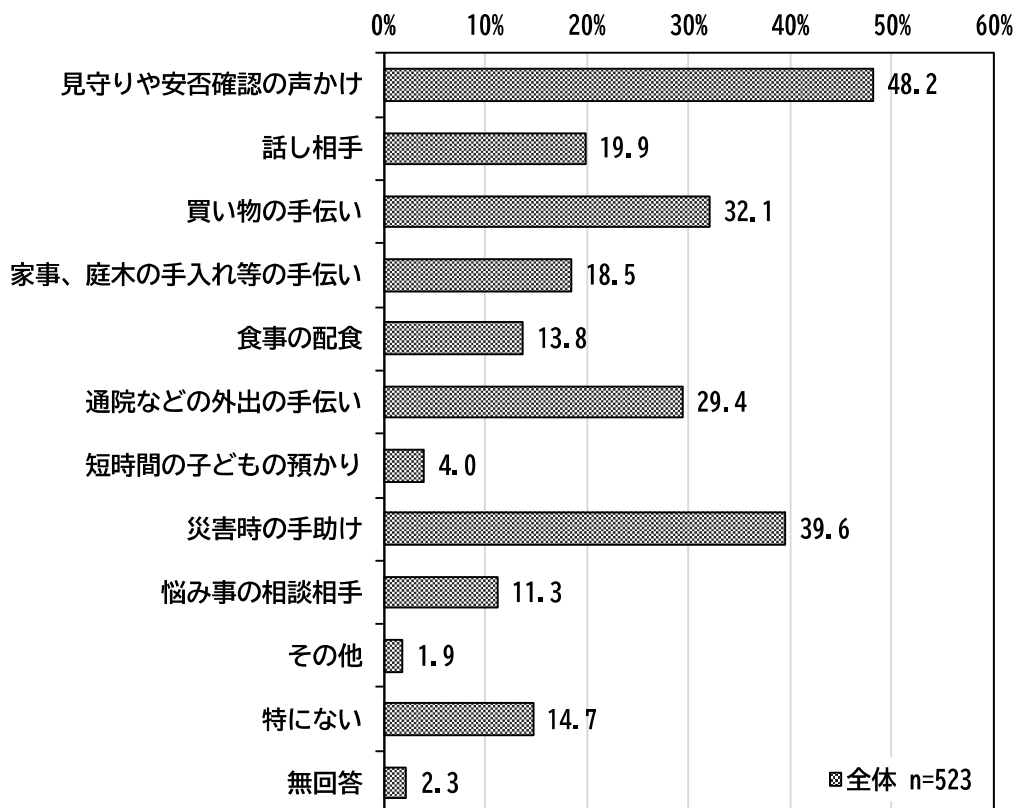
②地域活動への参加状況

地域活動への参加状況については、「参加している」が60.2%、「参加していない」が36.9%となっています。



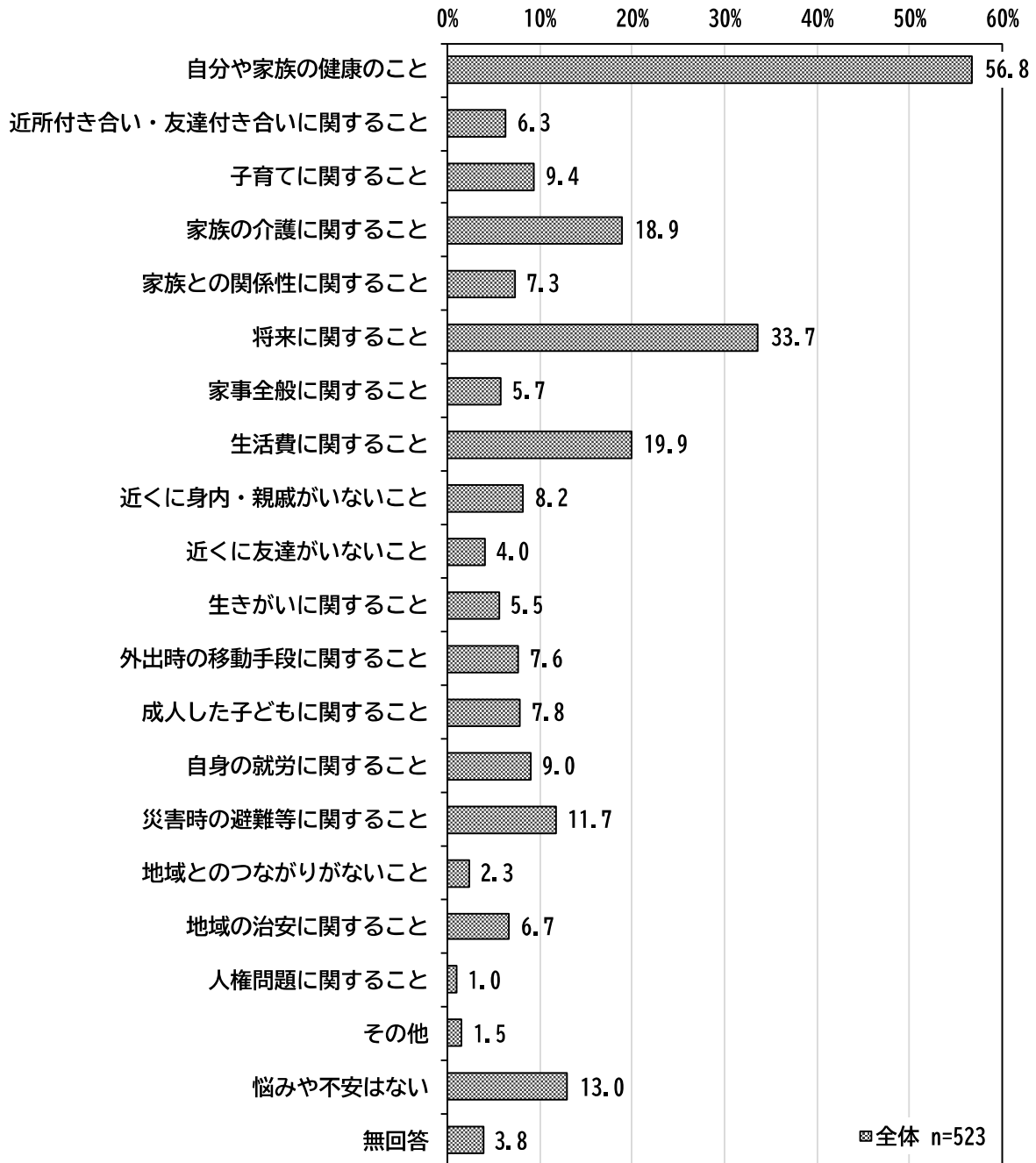
③日常生活が不自由になったとき、地域に望む援助

日常生活が不自由になったとき、地域に望む援助については、「見守りや安否確認の声かけ」が48.2%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が39.6%、「買い物の手伝い」が32.1%となっています。



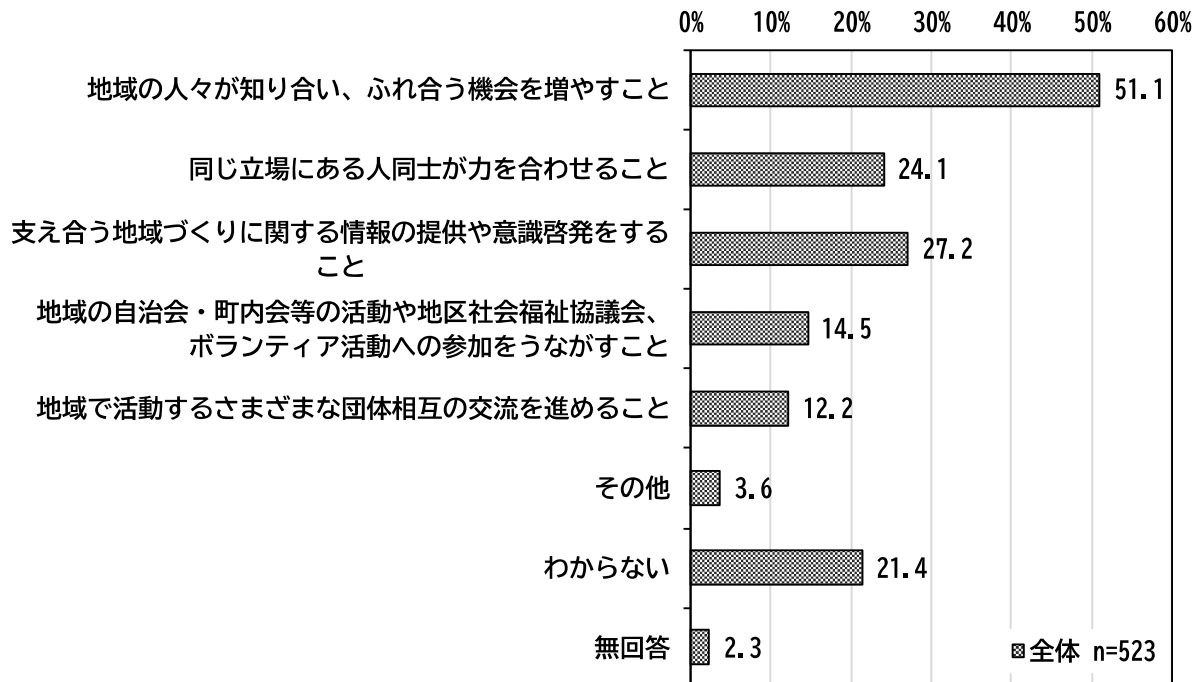
④日々の生活における悩みや不安

日々の生活における悩みや不安については、「自分や家族の健康のこと」が56.8%で最も高く、次いで「将来に関すること」が33.7%、「生活費に関すること」が19.9%となっています。



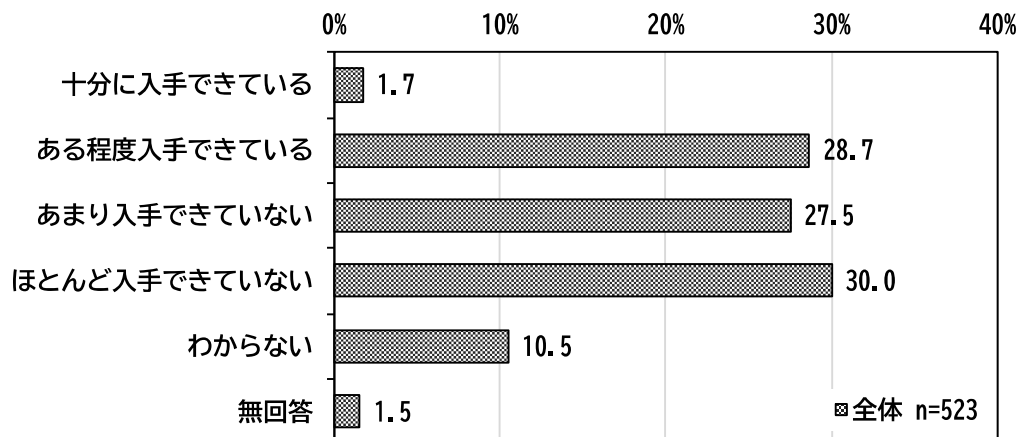
⑤住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために必要だと思うこと

住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために必要だと思うことについては、「地域の人々が知り合い、ふれ合う機会を増やすこと」が51.1%で最も高く、次いで「支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること」が27.2%、「同じ立場にある人同士が力を合わせること」が24.1%となっています。



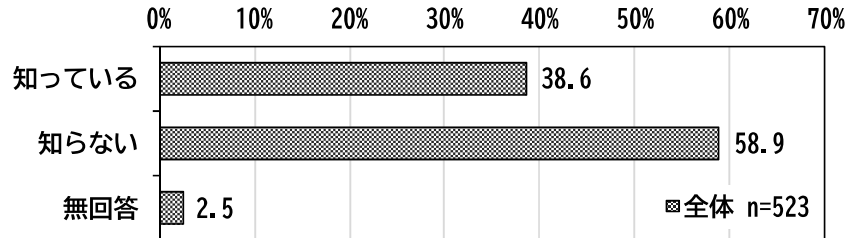
⑥福祉サービスに関する情報の入手状況

福祉サービスに関する情報の入手状況については、「ほとんど入手できていない」が30.0%で最も高く、次いで「ある程度入手できている」が28.7%、「あまり入手できていない」が27.5%となっています。



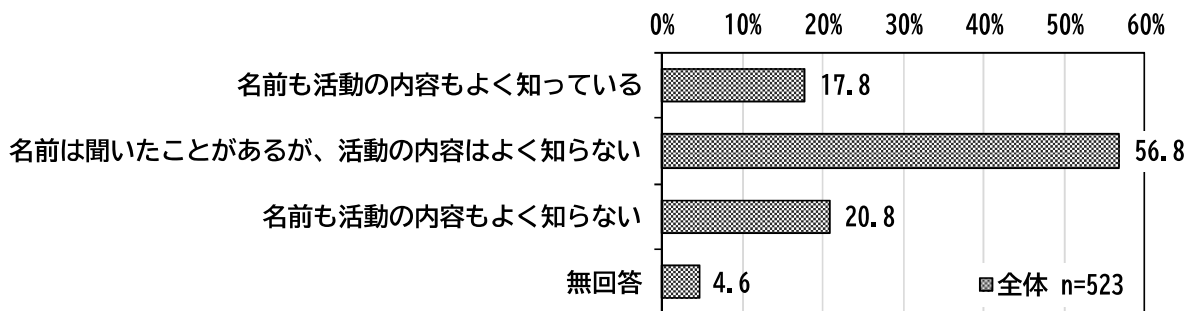
⑦地区の担当民生委員・児童委員の認知度

地区の担当民生委員・児童委員を知っているかについては、「知っている」が38.6%、「知らない」が58.9%となっています。



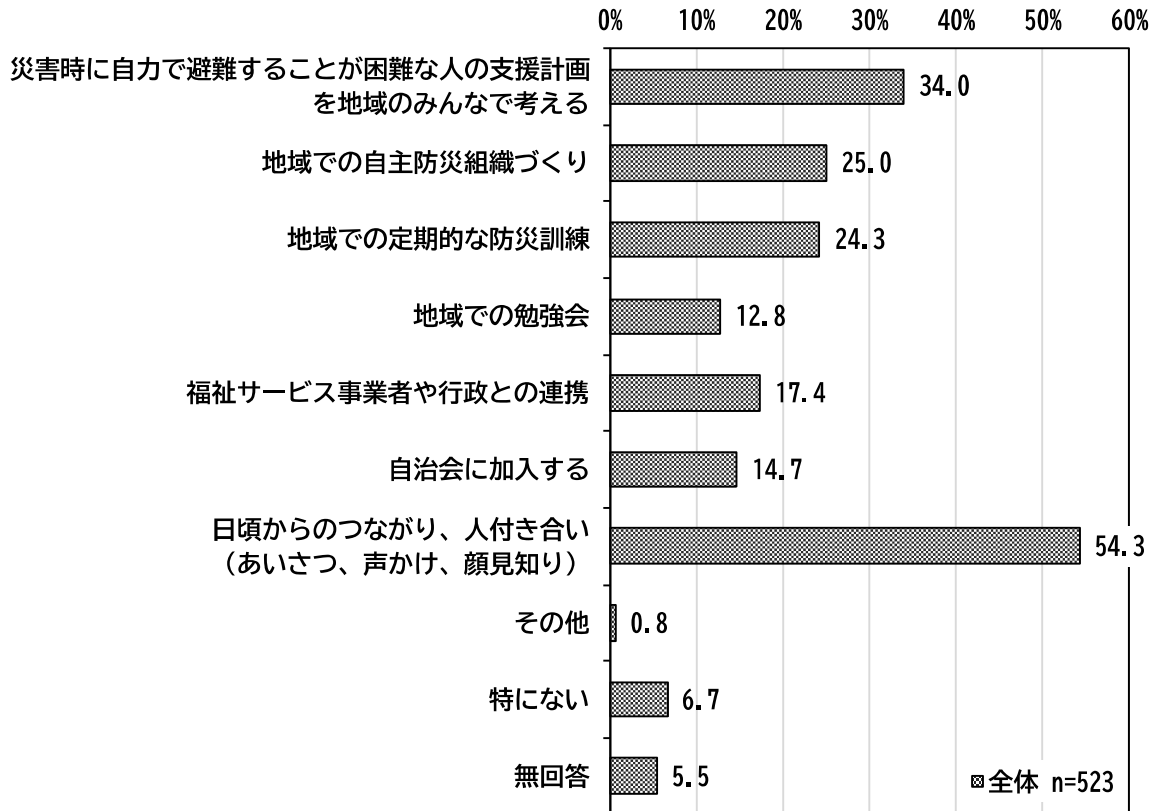
⑧社会福祉協議会の認知度

社会福祉協議会を知っているかについては、「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」が56.8%で最も高く、次いで「名前も活動の内容もよく知らない」が20.8%、「名前も活動の内容もよく知っている」が17.8%となっています。



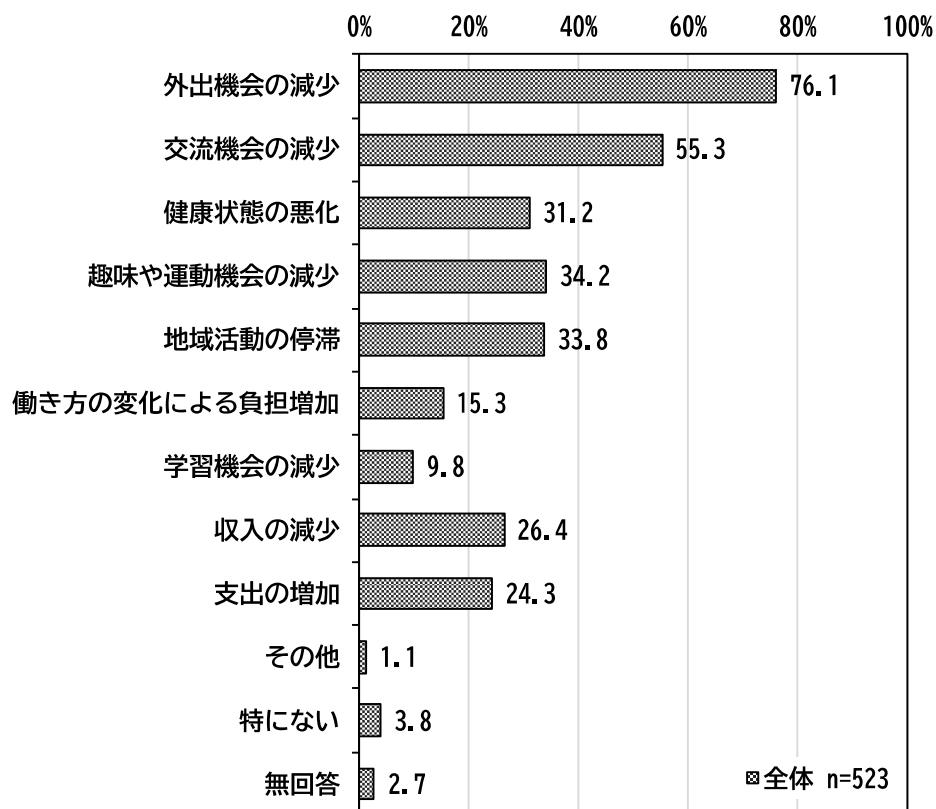
⑨災害時に住民同士が協力し合うために必要だと思うこと

災害時に住民同士が協力し合うために必要だと思うことについては、「日頃からのつながり、人付き合い（あいさつ、声かけ、顔見知り）」が54.3%で最も高く、次いで「災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみinnで考える」が34.0%、「地域での自主防災組織づくり」が25.0%、「地域での定期的な防災訓練」が24.3%、「地域での勉強会」が12.8%、「福祉サービス事業者や行政との連携」が17.4%、「自治会に加入する」が14.7%、「日頃からのつながり、人付き合い（あいさつ、声かけ、顔見知り）」が54.3%、「その他」が0.8%、「特にない」が6.7%、「無回答」が5.5%となっています。



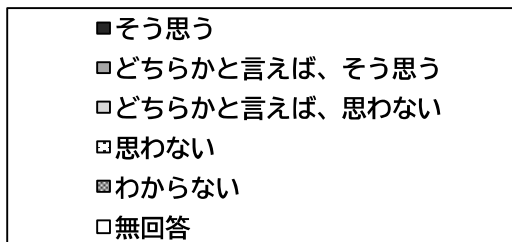
⑩新型コロナウイルス感染症が日常生活に与えた影響

新型コロナウイルス感染症が日常生活に与えた影響については、「外出機会の減少」が76.1%で最も高く、次いで「交流機会の減少」が55.3%、「趣味や運動機会の減少」が34.2%となっています。



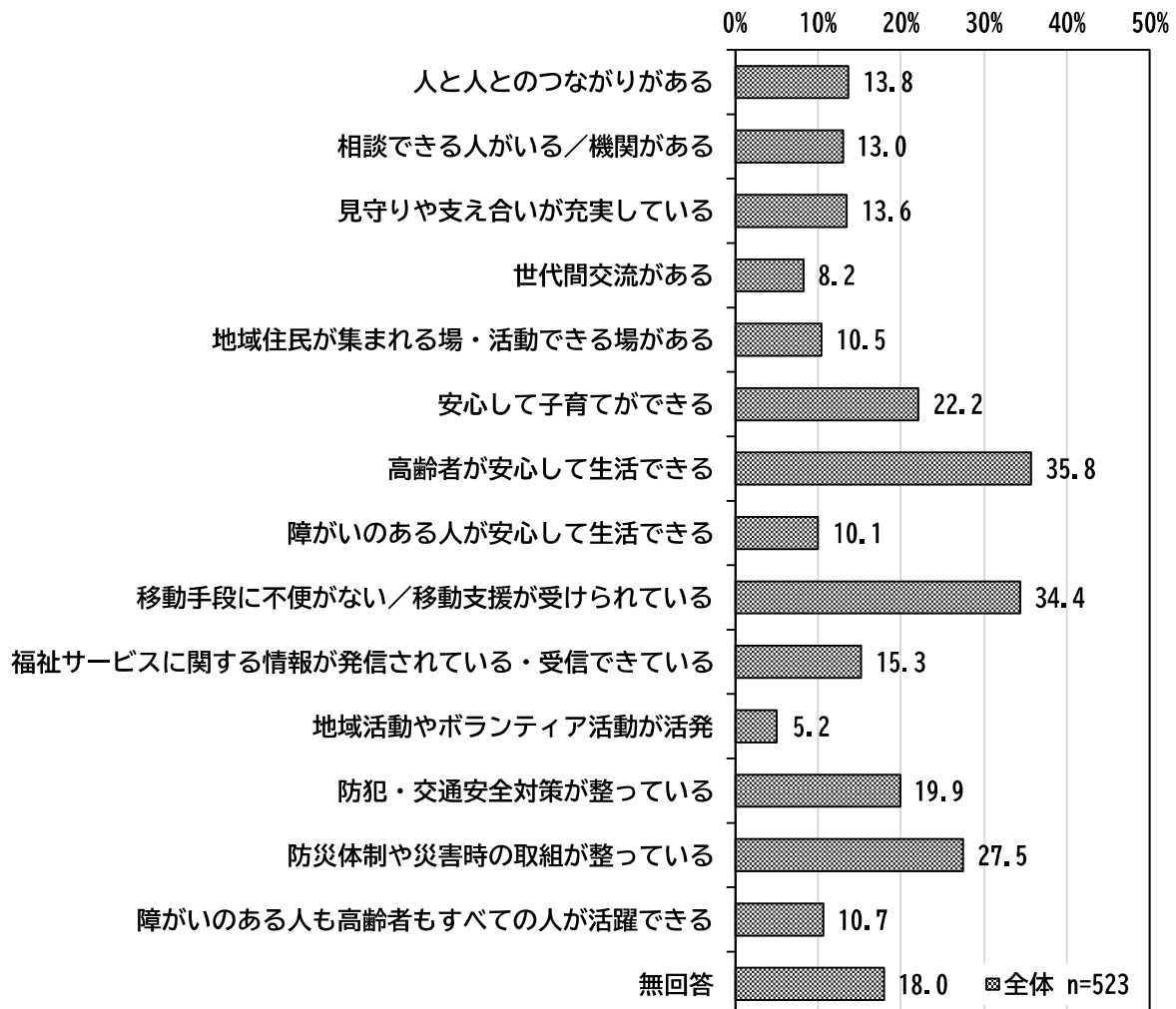
①地域の現状

地域の現状について、「そう思う」をみると、最低で1.7%、最高でも14.5%となっています。また、「わからない」をみると、『⑧障害のある人が安心して生活できる』、『⑬防災体制や災害時の取組が整っている』、『⑭障害のある人も高齢者もすべての人が活躍できる』で約3割となっています。



⑫今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目

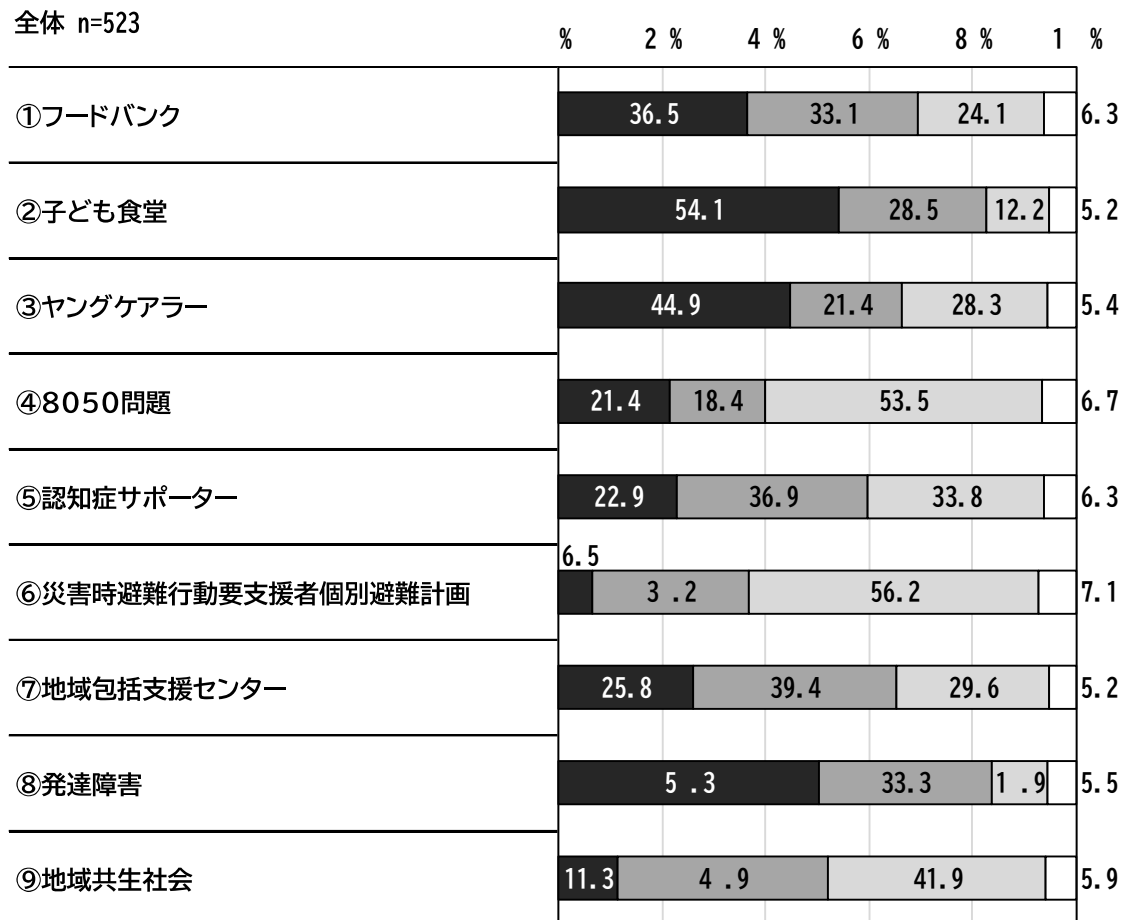
今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目については、「高齢者が安心して生活できる」が35.8%で最も高く、次いで「移動手段に不便がない／移動支援が受けられている」が34.4%、「防災体制や災害時の取組が整っている」が27.5%となっています。



⑬福祉に関する用語の認知度

福祉に関する用語の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」をみると、『②子ども食堂』が54.1%で最も高く、次いで『⑧発達障害』が5.3%、『③ヤングケアラー』が44.9%となっています。

一方で、「知らない」をみると、『⑥災害時避難行動要支援者個別避難計画』が56.2%で最も高く、次いで『④8050問題』が53.5%、『⑨地域共生社会』が41.9%となっています。



- 聞いたことがあり、内容も知っている
- 聞いたことがあるが、内容は知らない
- 知らない
- 無回答

3 住民懇談会の実施

(1) 実施の概要

本計画の策定にあたり、現在の地域福祉の現状を把握するとともに、地区の課題を市全体の課題として整理したうえで、解決策を検討することを目的として実施しました。

また、住民懇談会を通じて、他地区の課題や解決策などの情報交換の場、学びの機会とするとともに、地区社会福祉協議会のつながりを一層、強めることを目的としています。

■大田原地区：東部・西部・紫塚・金田・親園・野崎・佐久山

開催日	令和5年1月12日（木）
参加者	合計43名（市民：35名、大田原市社会福祉法人連絡会：2名、第1層生活支援コーディネーター：1名、第2層生活支援コーディネーター・見守り主任：5名）

■湯津上・黒羽地区：湯津上・黒羽・川西・両郷・須賀川

開催日	令和5年1月13日（金）
参加者	合計33名（市民：24名、大田原市社会福祉法人連絡会：3名、第1層生活支援コーディネーター：1名、第2層生活支援コーディネーター・見守り主任：5名）

■グループテーマの設定

- ・グループテーマ1：高齢者（移動手段、見守り、介護者、介護予防など）
- ・グループテーマ2：障害児・者（障害への理解、活躍の場、親亡き後など）
- ・グループテーマ3：子ども（子どもの困窮、児童虐待、体験の機会、子育てなど）
- ・グループテーマ4：健康（受診控え、心の健康、健康づくりなど）
- ・グループテーマ5：地域（人とのつながり、交流、災害など）



↑大田原地区 住民懇談会の様子



↑湯津上・黒羽地区 住民懇談会の様子

(2) 実施結果の概要

■グループテーマ1：高齢者（移手段、見守り、介護者、介護予防など）

課題／解決策	<p>【移手段】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドア to ドアの外出支援事業の仕組みづくり ・デマンド交通の利用 ・移動販売の活用 ・移手段の協力者の募集（佐久山の事例を学ぶ） など <p>【見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊による積極的な声かけ ・見守り拒否者に対する説得 ・見守りの報告をスマホでできるようにする など
--------	--

■グループテーマ2：障害児・者（障害への理解、活躍の場、親亡き後など）

課題／解決策	<p>【障害に対する理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会をつくる ・障害を理解するための勉強会の開催 ・障害のある人の話を聞く など <p>【働く場所や居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業や農業従事者への働きかけ ・就労機会の拡大 ・悩みを聞いてあげる など
--------	---

■グループテーマ3：子ども（子どもの困窮、児童虐待、体験の機会、子育てなど）

課題／解決策	<p>【子どもの見守りや安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全マップの作成 ・見守り者の配置 ・犬の散歩をしながらの見守り ・子どもと一緒に安全講習をする など <p>【地域とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会が積極的に育成会を巻き込んで事業を行う ・子どもも参加できる行事にする ・ほほえみセンターに子どもも行ける日があると良い など
--------	---

■グループテーマ4：健康（受診控え、心の健康、健康づくりなど）

課題／解決策	<p>【運動や体力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操の実施 ・与一いきいき体操の普及 ・1日30分のウォーキング ・歌声サロン ・毎日決めた運動をする など <p>【健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診会場までの移動手段として、バスなどを出す ・小地域ごとに受診率を上げる ・地域ごとに受診率を競争させる など
--------	---

■グループテーマ5：地域（人とのつながり、交流、災害など）

課題／解決策	<p>【地域交流・つながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはあいさつをしてみよう ・イベント等で若い人に役割を与える ・つながりがあると安心というアピールをする ・国際医療福祉大学の活用 ・大学生との交流 など <p>【防災・防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の声かけ ・消防団員の活動内容をPRする ・消防団の1日体験 ・空き家を活用したカラオケ大会 ・耕作放棄地をお花畑にして観光資源とする など
--------	--



↑大田原地区 グループ発表の様子



↑湯津上・黒羽地区 グループ発表の様子

4 地域活動などの現状

社会福祉協議会

社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき、全国都道府県・指定都市・市町村に組織的に設立されている民間の福祉団体で、本市には大田原市社会福祉協議会が社会福祉法人として昭和53年に設立認可されています。

大田原市社会福祉協議会は、「ともに生きる豊かな地域社会の実現を目指す～「人の力」「地域の力」「つながりの力」を活かす社協～」の経営理念のもと、様々な活動を展開しています。活動の財源は、「会費」として社会福祉に理解と関心のある皆様からお預かりしています。

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
会員数(人)	16,717	16,614	16,518	16,306	16,233
会 費(円)	9,251,300	9,121,550	9,141,000	8,939,250	8,911,140

会費の種類

- ・普通会員：自治会を通じて…………… 1世帯 500円
- ・特別会員：法人、事業所、商店など…… 1口 1,000円
- ・賛助会員：福祉施設、保育園など……… 1口 5,000円

会費の使い道

- ・市内12地区社会福祉協議会への活動助成金
- ・自治会ささえあい活動の支援
- ・福祉教育(ふくし共育)支援
- ・機関紙「大田原市社協だより」、ホームページによる情報発信など

ボランティアの状況

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ボランティア登録団体数(団体)	146	143	139	132	133
登録者数(人)	4,225	3,612	3,603	4,260	4,173
ボランティア活動保険加入者数(人)	4,823	4,689	4,236	4,257	4,380

5 関係団体等の現状

地域では、民生委員児童委員協議会連合会や区長連絡協議会をはじめ多くの方々が協力しあって活動され、地域福祉を進めています。

以下の関係団体等の現状は、令和5年4月現在の状況となっています。

民生委員児童委員協議会連合会

民生委員児童委員、主任児童委員併せて134人が、住民の立場に立った相談・助言や支援活動など福祉の向上のため、ひとり暮らし高齢者の訪問活動、高齢者の孤独死や認知症、児童虐待など様々な問題に対応するため、関係機関や団体と協力して活動しています。また、定期的に連絡会議や研修会なども行い、情報交換を行っています。

区長連絡協議会

市内には、166人の自治会長がおり、地区ごとに地区区長会、市全体の区長連絡協議会が組織されています。住民の市政に対する要望や意見を反映させるため、市と連携をとり、行政全般にわたって住民の理解を深めるなど様々な活動を行っています。

市老人クラブ連合会

市内には、46クラブ 1,578人の会員がおり、地域の高齢者の生きがいと健康づくりのために、仲間づくりを基本に、社会貢献、友愛訪問活動やボランティア活動、伝承活動や世代交流、環境美化など様々な活動を行っています。年々単位老人クラブ数、会員数が減ってきており、会の愛称を「いきいきクラブ」とするなど工夫しています。

福祉委員

自治会ごとに約1名、合計で170名の福祉委員がおり、自治会のささえあい活動の推進役として、自治会のささえあい活動の良さを見つけ、ちょっと心配だなという方に気づき、自治会長や民生委員児童委員につなげたり、近所に協力を呼びかけたりします。安心生活見守り事業では、見守り組織の一員として連携しながら取り組まれています。

大田原市ボランティア連絡協議会

市内のボランティア活動の中心となり、住みよいまちづくりを進めるためにボランティアグループ12団体の相互の連絡や情報交換、会員同士の交流や学習を行い、共同で行事を開催するなどして、障害のある人や高齢者と交流活動をしています。

地区社会福祉協議会（地区社協）

住民の自主組織で、自分たちの住む地域を自分たちで住みよくしていくために、様々な活動をしています。市内には12の地区社協があり、地域の方々がお互いに協力し合い、それぞれの地区ごとに特色ある活動を行っています。



地区社協の構成

地区社協は自治会などの住民組織や民生委員児童委員、福祉委員、ボランティアなどの地域福祉活動に携わる方、老人クラブや障害者団体などの当事者組織、社会福祉施設、駐在所などの関係機関、その他学校関係者、知識経験者など、地域の様々な組織や団体、個人などで構成されています。

地区社協の活動

- ・ひとり暮らし高齢者等への食事サービス
- ・世代間交流事業
- ・中学生の福祉体験受入れ
- ・小学生との交流事業
- ・福祉まつりの開催
- ・地区社協だよりの発行
- ・安心生活見守り事業（見守り活動）の推進 等

生活支援体制整備事業～ささえ愛おたわら助け合い事業～

全国的な少子高齢化、人口の減少とともに、単身世帯の増加や近隣関係の希薄化など、社会から孤立する人が生じやすい環境となり、従来の見守りや制度からもれる人を社会から孤立させずに支援していく仕組みづくりが社会的な課題となっています。

「生活支援体制整備事業」は平成28年度から全国でスタートし、見守り、買い物等の生活支援、通いの場など多様な地域の支え合いの仕組みをつくっていく、ささえ合いの地域づくり事業です。住民が中心となり地域の困りごとや資源の洗い出しを行い、解決策を検討する話し合いの場を「協議体」といいます。大田原市全体の第1層協議体と、地区社協エリアは、12地区ごとに第2層協議体が設置され、生活支援コーディネーターがそれぞれの地区で地域の支え合いを更に推進させる“地域づくり”の取り組みを地域住民とともに進めています。

安心生活見守り事業

大田原市では、様々な問題への取組のひとつとして、地域の皆様、市社会福祉協議会、地域包括支援センター、関係機関と共に、平成21年度から見守りや日常生活支援などを基盤支援とする安心生活見守り事業に取り組んでいます。

慣れ親しんだ地域で、誰もが孤立することのないよう、ご近所同士で声をかけあったり、気にかけてりしながら、地域ぐるみの見守り活動と生活支援、見守りを通したつながりづくりを進めています。

各地区の状況

令和5年4月現在、地区社協を一つの実施エリアとして、全地区で発足しており、住民主体による見守り活動などを実施しています。

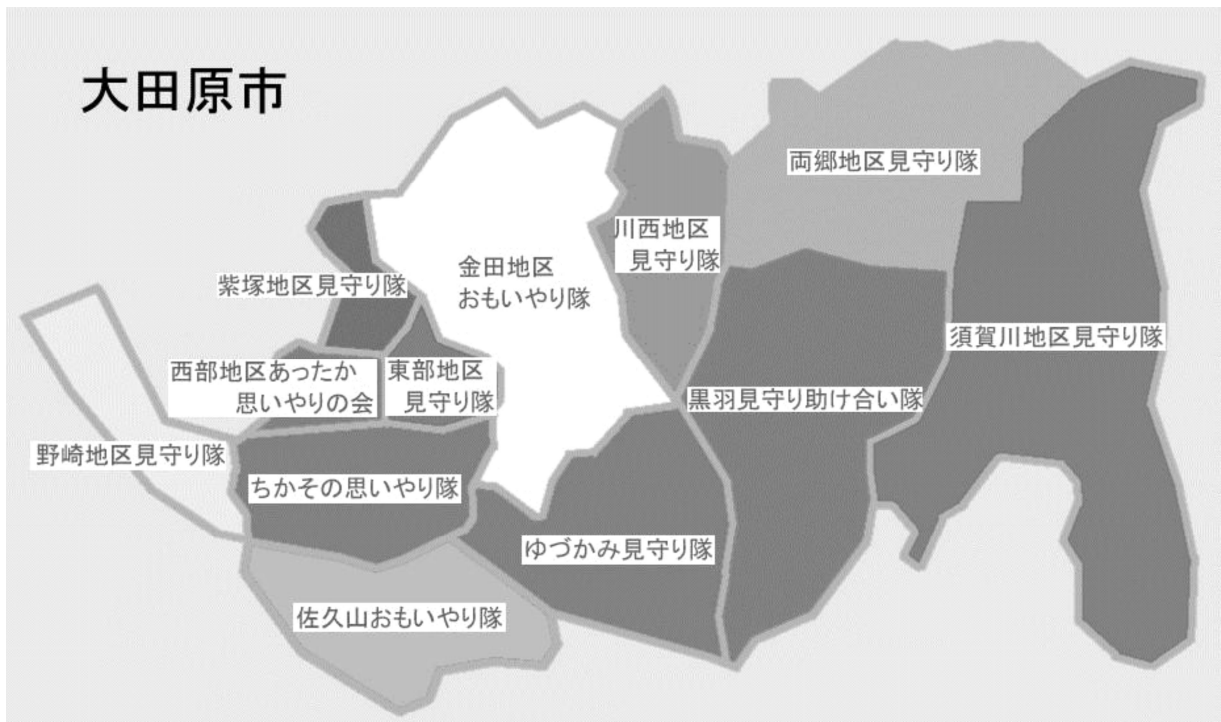
※地区隊（会）数：173、隊（会）員数：2,468人、対象者：1,344人

各地区に1名の主任を委嘱し、市と市社協と地域包括支援センターをはじめ、市と協定を結んだ警察・消防・医師会・日本郵便・農協などの団体や企業131か所の関係協力団体と各専門機関が連携して、活動を展開しています。

活動名	発足年月	地区隊 (会)数	隊(会) 員数	利用者数
黒羽見守り助け合い隊	平成22年3月	12	93	99
佐久山おもいやり隊	平成23年2月	17	122	143
紫塚地区見守り隊	平成23年7月	7	64	82
ちかその思いやり隊	平成24年11月	10	120	105
西部地区あったか思いやりの会	平成25年3月	8	117	187
須賀川地区見守り隊	平成25年10月	11	101	93
ゆづかみ見守り隊	平成25年11月	13	224	97

活動名	発足年月	地区隊 (会)数	隊(会) 員数	利用者数
東部地区見守り隊	平成25年11月	26	584	15
両郷地区見守り隊	平成26年6月	9	167	88
川西地区見守り隊	平成26年11月	17	258	122
金田地区おもいやり隊	平成26年11月	32	378	113
野崎地区見守り隊	平成27年2月	11	24	11
合計		173	2,468	1,344

令和5年4月現在



6 第3次計画の評価について

本計画の策定にあたり、第3次大田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の事業や取組を評価しました。内容は、①市民の取組、②施設・団体の取組、③社会福祉協議会の取組、④市の取組に分けて、達成度を見える化（可視化）するため点数化（各5点満点）し、取組状況を確認しながら、情報共有するとともに課題を検討しました。

基本目標／基本施策	全体平均	市民	施設団体	社協	市
基本目標1 互いに違いを認め合い支え合えるまち	3.11	2.84	3.24	2.76	3.62
1 ご近所同士声をかけあい、つながりをつくりましょう	3.31	3.28	3.27	2.95	3.73
2 歩いて行ける場所での集まりが大切なので、集まりの場所までの移動手段をつくりましょう	2.92	2.41	3.21	2.58	3.5
基本目標2 必要な人に必要な支援がつながるまち	3.9	2.81	2.97	2.95	3.62
1 閉じこもっている人が、外に出られるようにしましょう	3.2	2.92	2.97	2.87	3.33
2 誰もがわかりやすい行政サービスにしましょう	3.7	2.91	2.78	2.84	3.75
3 気軽に相談できる体制をつくりましょう	3.17	2.59	3.14	3.16	3.78
基本目標3 みんなの寄りどころがあるまち	2.6	2.1	2.59	2.42	3.28
1 年々空き家が増えているので、いろいろな世代の方々が一緒に集まれる居場所・通いの場をつくりましょう	2.95	2.75	3.1	2.47	3.56
2 空き家や空き地を地域で活用しましょう	2.25	1.46	2.17	2.38	3.
基本目標4 子どもたちが夢ある未来へ向かうまち	2.81	2.69	2.59	2.31	3.64
1 子どもたちが明るく安心して遊べるまちにしましょう	2.71	2.6	2.68	1.96	3.62
2 世代間交流を積極的に進めていきましょう	2.93	2.75	2.55	2.92	3.5
3 地域みんなで、安心して子どもを育てられるようにしましょう	2.78	2.71	2.55	2.4	3.8

基本目標／基本施策	全体平均	市民	施設団体	社協	市
基本目標5 いきいき・わくわく活動できるまち	2.83	2.62	2.86	2.44	3.38
1 世代を超えて地域の行事にみんなで参加できるようにしましょう	2.94	2.77	2.85	2.64	3.5
2 定年退職した人など、熟年パワーを地域の活力にしましょう	2.82	2.45	2.8	2.3	3.75
3 障害のある人が地域に参加できるようにしましょう	2.56	2.38	2.58	2.29	3.
4 福祉教育を充実し、共に生きる意識を高めましょう	2.83	2.58	2.86	2.67	3.23
5 小中学校は、地域活動の重要性について理解しているので、今まで大人だけでやっていたイベントの企画などを先生だけでなく、児童生徒も一緒にできるようにしましょう	2.97	2.92	3.19	2.32	3.44
基本目標6 あんぜん・あんしんなまち	2.8	2.43	2.7	2.68	3.39
1 災害時にどのような支援があるのかなど、多くの住民に情報が行き渡るようにしましょう	2.75	2.36	2.79	2.34	3.5
2 お互いのことが分かれば、様々な事に対応できるので、一人ひとりに合った（障害の内容や程度に合わせられるようにするユニバーサルデザイン）方法で、対応できるようにお互いを知りましょう	2.42	2.4	2.18	2.22	3.25
3 みんなで地域づくりをしましょう	2.89	2.82	2.94	2.64	3.16
4 みんなが健康で暮らせるようにしましょう	2.93	2.71	2.42	2.69	3.92
5 「権利擁護」の言葉を知らない人が多いことから、もっと啓発しましょう	2.65	2.5	2.57	2.7	3.28
6 地域福祉活動計画については、日常生活圏域ごとの課題もあるため、地域ごとの小地域福祉活動計画を策定しましょう	3.15	2.63	3.26	3.47	3.25

7 第4次計画に向けたポイント

大田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会において、アンケート調査結果や住民懇談会、第3次計画の評価等を踏まえ、本市の地域福祉を高めるため、より一層創意工夫が必要なこととして、次のとおり、第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会より第4次大田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会に提言を行いました。

第4次大田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会
委員長 青龍寺 弘 範 様

第3次大田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会
委員長 平久江 徳 昭

今後、より一層、創意・工夫が必要なこと

- 1 誰もが役割や生きがい、楽しみを感じられるよう、様々な背景をこえてつながり、地域共生社会の取り組みを進めていくことが必要です。
- 2 地域活動に関心のある人や、この地域に住み続けたいと思う人が増えるよう、誰もが主体となり活躍できる地域づくりが必要です。
- 3 多世代で自分たちの目指す地域像（小地域福祉活動計画）について話し合い、取り組みを継続していくことが必要です。
- 4 様々な媒体を活用し、必要とする人に必要な情報が届くようにすることが必要です。
- 5 複雑・多様な問題が深刻化してしまう前に、円滑に相談機関へとつなげる様々な仕組みが必要です。
- 6 交通手段の確保は生活に欠かすことができないため、様々な手段の検討が必要です。
- 7 あらゆる世代とのつながり、ふれあいの機会を通じて、地域で生活することの楽しさを感じることができるまちづくりが必要です。
- 8 全ての年代において健康づくりの地域活動を促進し、健康意識が向上するような取り組みが必要です。
- 9 人それぞれ価値観や思想、置かれた状況が異なります。多様性を認め合うには、お互いを知ること、交流することが大切であるため、様々な人が参加でき、意見交換できるような場づくりを進めていくことが必要です。
- 1 地域力を高めることは、そこで暮らす地域住民の安全安心にもつながることから、日頃から顔と顔が見える関係づくりを進めるとともに、助け合える仕組みづくりが必要です。